

東京都千代田区における食料品・最寄品小売業と 地域住民の購買行動に関する研究

森田裕一(埼玉大・教養)

東京都心部では昼間流入人口が多く、常住人口の減少が継続している。したがって東京都心部における食料品・最寄品小売業の特性は、昼間時の昼食供給が多く、食料加工品販売店の伸びは著しいが、食料品素材(青果・鮮魚・食肉・米穀類)販売店である中小小売店は停滞あるいは衰退する傾向がある。本研究は東京都千代田区を事例に、こうした状況下における食料品・最寄品小売店の分布を調査し、これらの小売店と都心居住者の購買行動の関係を明らかにした。

販売側の中小小売店と消費者側の居住者双方に対して、対面アンケート調査を実施し、小売店には経営実態を、居住者には品目別購買行動を尋ねた。調査結果から以下のことが明らかになった。千代田区の中小食料品素材小売店は飲食店経営者との強固な取引を持ち、一般消費者を主要な顧客と捉えていない。業者は中小小売店から仕入れた素材を加工し、それを

昼間にこの地区に流入する人口へ昼食として供給するという販売形態が確認できた。

住民の購買行動をみると、住民は食料品素材のうち米穀類を除き、徒歩圏内のスーパーに頻繁に訪れるが、近隣にスーパーがない場合、千代田区の隣接区のスーパーに出かけている。また米穀類は中小小売店で、最寄品はフランチャイズ系のドラッグストアで購入する傾向がある。次いで中小小売店や百貨店、無店舗販売型の生協・宅配を利用する例も多い。買い物に行く店舗の多様性の幅、および購買の際の移動距離は、若年層で大きく、高年層になるにつれ小さくなる傾向がある。

したがって都心部における高年層の購買は近隣の中小小売店に強く依存し、こうした小売店の存続は昼間人口向けの飲食店との取引を基盤としていることが明らかになった。(以上)

3月まで:埼玉大学・教養学部・教養学科・地理学コース

4月から:埼玉大学大学院・文化科学研究科・文化構造専攻・地理学研究室

メールアドレス:森田裕一 yandm11480@yahoo.co.jp